



社会医療法人医真会  
医真会八尾総合病院  
松村吉庸 院長

高山勝年  
放射線科兼脳神経センター  
脳血管内治療科部長

伊東勝也  
整形外科部長

## 地域主体の安心・安全の医療 脳血管内治療、手・足の外科など 希少な治療にも取り組む

救急医療・急性期医療の実践を理念に掲げ、さらに厚く地域医療に貢献する医真会八尾総合病院。松村院長、脳血管内治療科部長の高山先生、整形外科部長の伊東先生に、それぞれの立場から医療に対する取り組みや思いをうかがった。



登録医に返信状を送り信頼関係を強めるなど、地域医療への取り組みを続ける松村院長



1.「手術では合併症を可能な限り抑えることが最優先。カテーテル治療、外科手術、どちらにも備えることなく、レベルの高い治療を施したい」と話す高山先生  
2.手の外來はひじから先、伊東先生が担当する足の外來はすねから下が専門分野

### 病院全体の取り組み

#### 地域医療をバックアップ 院内学会で自己研鑽も

医真会八尾総合病院は救急医療・急性期医療を主体として地域医療に深く寄与している病院。松村院長は「理事長の森功が、開業医の先生方をバックアップしたい、という思いから立ち上げたのがこの病院です。現在では一般化している登録医制度も1992年にいち早く取り入れ、登録医数は251名に増えています。登録医からの依頼であれば慢性期の患者さんでも可能な限り受け入れ、然るべき処置をしてから慢性期病院にお願いします。そんな地域医療を目指しています。また、地域住民との結びつきも強く、駐車場を利用して河内音頭の夏祭りや、年末の餅つき、クリニック内で予防医学について勉強してもらおう健康祭などを開催し、地域に根差した医療を地域住民に提供している。内部監査機関であった「医真会オーディット機構」は、監査だけでなく医療の質を向上させるための対策を構築する『医療安全管理室』に改変。日常の勤務の中で研鑽を積み、レベルアップを意識づける『医真会グループ学会』を立ち上げるなど、グループぐるみで常に安心・安全な医療提供に努めている。

### 脳神経センターの取り組み

#### 経験豊富でスピーディー 脳血管内治療のスペシャリスト

脳神経センターでは高山部長によるカテーテル治療が特徴的だ。カテーテル治療は高度な技術が要求されるが、高山先生は指導医に認定されるほどのクオリティでこの治療に取り組む。「当院では外科手術を担当する脳神経外科医と相談のうえ、ケースバイケースでカテーテル治療と外科手術を使い分けることで、患者さんに適した治療を行います。また脳神経領域の治療はスピーディーな対応が肝要。そこで運び込まれた患者さんをMRIで検査し、その結果を4名の医師が持つタブレット端末に転送します。そのデータをもとに非番の医師も含めてすぐにディスカッションを行い、即座に治療方針を決めて手術までの処置等を指示します。治療のクオリティだけでなく、このスピードに特化した対応も当院の大きな特徴です。従来では難しかったステントを使った治療も可能になったが、これも非常に高い技術を要する治療法。扱える医師が少ないながら、高山先生は大阪府内でもトップクラスの実績数を誇る。また年間に2〜3回は海外の国際学会に出席し、新しい治療を勉強しているという。日進月歩の医療技術の最先端を常に捉え、患者さんに還元したいという高山先生の意気込みが、同院の信頼を支える大きな柱となっている。

### 整形外科の取り組み

#### 専門医が少ない手・足の外科 人工関節、低侵襲手術も対応

整形外科では需要が多い救急外傷骨折、脱臼、外傷一般の治療に取り組んでいる。人工関節置換手術ではドイツ留学で技術を磨いた担当医がおり、症例数を延ばしている。手術を要する治療に関しては、可能な限りMIS（最小侵襲手術）の適用に努める。関節専用の内視鏡、関節鏡を備え、手術による傷を最小限にとどめ早期離床を目指す。医真会ではリハビリ病院もあり、術後のケアも安心だ。さらに特徴的な点として、伊東部長が担当する、足の外科や専門医が担当する、手の外科が挙げられる。「膝や脊椎を専門に掲げる病院は多いですが、手や足は少ないはず。足の外科では外反母趾、変形性足関節症、扁平足などを診ています。また手の外科では手関節の靭帯損傷や変形性関節症など専門の医師でなければ診断が難しい症例も、手足の外科ならより詳しく診断できます。ただの捻挫だと思っても、実は靭帯が切れているというケースもあるので、痛みがずっと続いているのに病院では異常なしと診断される、という方は、ぜひこ来院ください。伊東先生は「患者さんの気持ちになって、患者さんが抱える不安を解消したい」と話し、痛みに苦しむ患者さんの希望となりそうです。